

令和2年度生徒指導集中対策，生徒指導実践指定校及び不登校等未然防止推進校

「指定校における取組事例」

| | | | | | |
|-----|-----------|----|-------|------|-------|
| 学校名 | 三原市立第三中学校 | 校長 | 有木 浩城 | 担当者名 | 高田 直也 |
|-----|-----------|----|-------|------|-------|

取組事例名 『三中チャレンジカップ』

| | | | |
|----------------|------------------------------|---|----------------|
| 生徒指導に係る連携体制の確立 | カウンセリング・マインドをもった教職員と児童生徒との対話 | ○ | 主体的な活動を通じた絆づくり |
|----------------|------------------------------|---|----------------|

取組における育てたい資質・能力

「コミュニケーション能力」 「課題発見・解決力」 「思いやりと協調性」

取組のねらい

- (1) 年間を通して，縦割り集団で活動を仕組み，互いに競い合い，認め合い，励まし合う中で自治的集団をつくる。
- (2) 生徒が目的意識を高め，様々な行事や授業，点検活動等に主体的に取り組むことができる。
- (3) ピア・サポート活動を通して，課題解決する力をつける。
- (4) 生徒会執行部や第3学年生徒を中心に企画・運営をしていく中で公正に行動し，進んで規則を守り，互いに協力して責任を果たすなど，社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容

年間を通して縦割りの集団で活動を仕組み，学校行事や委員会の点検活動を行い，活動を得点化した。活動のほとんどが「集団」で行うものだったため，コロナ禍により，年度当初計画していたものとは，大きく変更することとなった。しかしながら，生徒会執行部を中心として，生徒からアンケートをとり，感染拡大防止の3密を回避できる活動を企画・立案し行った。以下が取組内容である。

三中チャレンジカップ年間計画

| 実施時期 | 実施内容 | 担当する委員会 (教科・実行委員) |
|------|---------|----------------------|
| 7月 | 号令 GP | 生活委員会 |
| 9月 | 球技大会 GP | 球技大会実行委員 |
| 10月 | 運動会 | 運動会実行委員 |
| 1月 | 持久走 GP | 保健体育科 |

取組の創意工夫

三中チャレンジカップは，今年度で3年目となる取組である。今年度は，昨年度からより発展させる予定であったが，コロナ禍により活動が制限されてしまった。その中でも生徒が主体的に取り組めるよう実行委員会を立ち上げ取り組んだり，活動の詳細や結果をまとめて掲示したりして，絆づくりのきっかけにした。



取組の成果と課題

コロナ禍により，様々な学校行事や活動が中止・縮小されていく中で，感染拡大防止の対策を行い，工夫して取り組むことができた。生徒の振り返りの中には，「結果はともかく，少しでもみんなと関わり合えるだけで満足だ。コロナで休校になって少なくなったクラスのみんなとの時間を大切に過ごしていきたい」との感想もあり，絆づくりのきっかけにもすることができた。来年度も取組を継続させ，新しい生活様式の中で実施できることを生徒とともに考え，発展させていきたい。